

会報

第130号

令和7年2月吉日

新潟県特別支援教育研究会事務局

新潟市中央区白川1-207-3

TEL 025 (265) 4111

FAX 025 (265) 4112



答えになったでしょうか

新潟県特別支援教育研究会

副会長 阿部 隆一

新潟県特別支援教育研究会って、何の会ですか。新採用職員からの質問でした。私は、こんな説明をしました。

会のホームページを見ると「昭和28年、会の設立」とありますよね。今から71年前に始まった会です。教育基本法や学校教育法が制定された昭和22年、新制度に基づいて新潟市立舟栄中学校に特殊学級（知的障害特別支援学級）が県内で初めて開設されました。何を、どう教えればよいのか、当時の先生方も考え続けたようです。知的障害特別支援学級が県内小中学校でまだ計6教室しかなかった昭和28年、研究会の結成に至りました。当時の名称は、新潟県特殊教育研究会。

会の設立後、翌昭和29年には指導者講座を主催。昭和34年には、現在も続いている上中下越3地区研究大会を定例化。昭和35年には、指導者講座が県教育委員会との共催に。昭和38年には文部省（文部科学省）主催の関東ブロック指導者講

座に会が協力。会の結成後わずか10年、すごいよね。その後も会は発展。昭和41年には規約改正し、知的障害教育だけではなく、県内全ての特殊教育が集う会に。平成17年には名称を改正して、現在の新潟県特別支援教育研究会になったそうです。

会の目的は、「特別な教育支援を必要とする児童生徒に対する教育の推進を図ること」と規約にあります。主な事業は「全県的に研究活動を活発にすること。資料の編集・刊行。研究大会や研修会の開催。関係団体との連絡調整」などと規約に。会員については、昭和41年の経緯があったからでしょうね、「本会は本県の特別支援学級及び通級指導教室を設置している小中学校並びに特別支援学校の教職員をもって会員とする」という規約が続いてきました。それが令和6年5月、こう改正されました。「本会は本県の特別支援学級及び通級指導教室を設置している小中高等学校・特別支援学校並びに入会希望校の教職員をもって会員とする」と。気が付きますか、これって、遂に県内の全教職員が同じ目的のもと、特別支援教育の推進にみんなで取り組む会になったということですよね。

特殊教育から特別支援教育になって18年。学習指導要領解説は、全ての教科編で特別支援教育の配慮や工夫を掲載する時代。71年前に数名で特殊教育の研修を始めた。その取組・志が脈々と続き、今では県内教職員全員がそれぞれの勤務先で、特別支援教育を推進している。この県全体の取組・志・繋がり。それが新潟県特別支援教育研究会。私はそう感じています。

この会報、ぜひ読んでみてください。

令和6年度 主な事業報告

○三役会

第1回三役会（オンライン開催）

令和6年 5月 1日（水）

第2回三役会（オンライン開催）

令和7年 1月14日（火）

○理事会・評議員会

第1回理事会・評議員会（オンライン開催）

令和6年 5月21日（火）

第2回理事会・評議員会（オンライン開催）

令和7年 1月29日（水）

○全特連関係

・全日本特連全国大会福井大会

全体会（令和6年11月21日）

・関東甲信越地区大会千葉大会

全体会・分科会（令和6年 8月23日）

○研究大会

・上越地区中部大会（8月 2日実施）

・中越地区長岡大会（8月 5日実施）

・下越市区新潟大会（11月27日実施）

・佐渡地区大会（今年度は開催なし）

○会報

・129号（7月）、130号（2月）

○全国大会新潟大会に向けて

・全特連全国大会新潟大会の実行委員会を
県特支研理事評議員会と同日開催。

・役員会を5回実施。

*5月、7月、9月、12月、1月

【上越地区・中部大会】

会場とオンライン合わせて380名を超える参加者を得ての開催になりました。

講演会では、和歌山大学名誉教授の武田鉄郎様から「発達障害のある子どもの不登校等の二次障害の予防と対応『叱らないけど譲らない提案・交渉型アプローチの効用-』について、お話をいただきました。

武田様は、今回の講演の目的を、「発達障害のある子どもの中には、トラウマ症状を呈していて不適応状態になり、生きにくさや行き詰まり感を持つ者は少なからずいる。本来ならば『できる』こともできなくなってしまうことがある。このような状態にある子どもの効果的な指導・支援の在り方である『提案・交渉型アプローチ』を紹介し、発達障害のある子どもの自尊感情を育て可能性を広げる対応・支援の方法を考えていくこと」としていただきました。そして、具体的な子どもの事例や様々なデータ等を挙げながら、「提案・交渉型アプローチ」の効果や成立させるためのポイント等を分かりやすく説明していただきました。

参加者は、今関わっている子どもを思い浮かべながら「提案・交渉型アプローチ」の効果を確信し、すぐに実践してみようという意欲が湧いてきました。

講演の最後に、「大会事務局に連絡先を知らせるから、校内研修などでもよいので、いつでも連絡をどうぞ」とのありがたいお話がありました。実際、大会後すぐに、「武田先生の連絡先を教えてください」という問い合わせが複数件ありました。武田様が、上越の地にいてくださり、メールを送ってくださっていることを心強く思います。

来賓・講師をはじめ、大会に関わったすべての皆様のご支援ご協力に感謝申し上げます、報告いたします。

(事務局 上越市立飯小学校)



【中越地区・長岡大会】

大会主題『『個』と『集団』の両面にアプローチする特別支援教育の現状と課題～インクルーシブ教育システム構築の未来へ向けて～』のもと、中越地区の小・中・特別支援学校の教職員、各関係機関から、会場およびオンライン参加合わせて約600名の参加を得ての開催となりました。

講演会では、講師に和歌山大学名誉教授の武田鉄郎様をお迎えし、「発達障害のある子どもの不登校等の二次障害の予防と対応『叱らないけど譲らない提案・交渉型アプローチの効用-』という演題でご講演いただきました。生きにくさや行き詰まり感をもつ子どもの思いに寄り添い、主体性や自主性を重んじながら子どもが「選択」できる状態を設定し指導・支援することで、自尊感情を育て、可能性を広げていけることをお話いただきました。また、問題発生を予防するには、教師が共通認識をもち、役割分担しながら「その子」に同じ見方で関わっていくことが大切であることを教えていただきました。

その後、大会主題をテーマとしたシンポジウムを行いました。4名の発表者（①通常の学級担任、②小学校特別支援学級担任③中学校特別支援学級担任、④通級指導教室担当）が、それぞれの立場から、困り感を抱える子どもへ「個」と「集団」の視点をもってアプローチした支援の実際を発表しました。講師の武田様からもご指導いただきながら、各実践のポイントを掘り下げること、学びの多い充実したシンポジウムとなりました。

本大会は、インクルーシブ教育システムの構築に向けて、「個」と「集団」の両面からアプローチしていくことの重要性を再認識する機会となりました。来賓、指導者の皆様をはじめ、発表者の皆様、大会運営にご尽力くださった皆様に心より感謝申し上げます。

(事務局 長岡市立与板小学校)



【下越地区・新潟市大会】

今年度の新潟市大会では、6つの分科会を設定し、研修を行いました。分科会をハイブリッドで行うという初の試みに挑戦しました。新潟市の参加者は会場に参集、その他の下越地区の参加者はオンライン参加にしました。ハイブリッドのよさを生かし、校内研修として学校中の教員が参加したり、地区の研修会として実施したりしていただきました。

分科会に先立ち、新潟県及び新潟市教育委員会から、「特別支援教育の現状と課題」についてご説明いただきました。また、担任（通常学級・特別支援学級・通級指導教室）が専門性をより一層向上させることや合理的配慮の実践者であることをご指導いただきました。

大会主題「多様な学びの場で、共に学ぶ特別支援教育を目指して」にふさわしいように、6分科会（特別支援学級での支援<小・中>、通常学級での支援、通級指導教室での支援、校内支援体制づくり、家庭・地域との連携）を設定しました。分科会では、発表者から自身の実践紹介とともに、協議題が提案されました。それを受け、会場参集者同士のグループ、オンライン参加者同士のグループに分かれ、実践・提案に対しての意見を出し合ったり、情報交換をしたりしました。

参加者からは、「他市の特別支援教育の様子」が、自分の市と異なることが多いということがわかった。「他市の取組が参考になる。下越地区で研究会を実施する意義があると思った。」という感想が聞かれました。本大会での学びを通し、特別支援教育をさらに推進する意欲と、課題解決のために現場で実践していく決意を高めることができました。

本大会の参加者は、会場参加 53 名、オンライン参加 111 名で、運営役員・委員を含めて約 200 名となりました。来賓・指導者の皆様をはじめ、発表者、司会者の皆様、大会運営にご尽力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

（事務局 新潟市立小林小学校）



令和6年度 第58回全日本特別支援教育連盟全特連 関東甲信越地区特別支援教育研究協議会 千葉大会

県内派遣

提案者

村上市立保内小学校 八藤後 和男 教諭

司会者

新潟市立万代長嶺小学校 谷川 美記子 教諭

第3分科会「障害特性や発達段階を踏まえた通級による指導」で平仮名の読みに関する児童への指導について提案発表を行いました。司会者である新潟市立万代長嶺小学校の谷川美記子先生から務めていただきました。

言語障害通級指導教室に通う児童で、構音は改善したものの、読みの困難さが残った児童に対して在籍学級や保護者と連携しながら読みの困難さの改善を目指して指導した実践について報告しました。

指導者の東上総教育事務所特別支援アドバイザー岡田様からは、発達の課題はことばに表れてくるので、ことばの教室では多様なニーズに応えることが求められるというご指導をいただきました。ご指導の中にあった「ことばは心や発達と関わる。ことばだけ治療すればよいわけではない。」という言葉が特に印象に残りました。

本大会で得た知見や気づきを今後の教育活動に生かし、すべての児童が自信をもってことばを読んだり話したりできる支援に努めます。

（村上市立保内小学校 八藤後 和男）



令和8年度 全日本特別支援教育研究連盟全国大会 新潟大会 開催のお知らせ

令和8年に、全日本特別支援教育研究連盟の全国大会が開催されることが決定いたしました。全国から多くの先生が来県し、素晴らしい実践を聞くことができるまたとない機会となります。開催にあたり、多くの先生方から今後ご協力をいただくこととなるかと思ひます。ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年度 各種大会・研究会等の予定

令和7年度 新潟県特別支援教育研究会新潟大会 (全国大会プレ大会) 開催のお知らせ

本大会は令和8年度新潟県で開催される第65回全日本特別支援教育研究連盟全国大会新潟大会のプレ大会として行います。全体指導、講演、各分科会での研究協議を通じて、研鑽を深めるとともに、全国大会新潟大会を成功させるためにさまざまな角度から検討していきます。多くの方にご参加いただき、ご意見を賜りたくご案内申し上げます。

詳細については、1月下旬に各校に配付された一次案内をご覧ください。

日時：令和7年8月1日（金） 10:00～15:00

場所：新潟テルサ（新潟市中央区鐘木185-18）

第64回 全日本特別支援教育研究連盟全国大会 北海道大会

- 令和7年10月23日（木）、24日（金）
- 開会行事、記念講演、分科会（数会場に分かれ、対面での実施を予定）

第59回 全日本特別支援教育研究連盟 関東甲信越地区特別支援教育研究協議会 茨城大会

- 令和7年8月8日（金）
- 開会行事、記念講演、研究・実践報

令和7年度 新潟県特別支援教育研究会 研究部研修会

- 知的障害部（事務局：新潟市立新津第一小学校）
- 自閉症・情緒障害部（事務局：長岡市立千手小学校）
- 肢体不自由・病弱・身体虚弱部（事務局：見附市立今町小学校）
- 言語・難聴部（事務局：新潟市立万代長嶺小学校）
- 視覚障害部（事務局：新潟よつば学園）

※各部において、オンライン又は対面での実施予定。

編集後記

県特支研だより「No.130号」をお届けいたします。ご多用の中、多くの皆様から、玉稿を賜りました。感謝申し上げます。本号が新潟県の特別支援教育の一助となることを願っております。